

「過去・現在・未来の自分」



就職 2 年目
保育教諭 たけやま れな 竹山 怜那

今回は「過去・現在・未来の自分」というお題を頂きました。私は瀬戸こども園(旧瀬戸保育所)の卒園児で、現在はひよこ2組の担任をしています。今回このようなお題を頂いたので、瀬戸こども園の卒園児だからこそその思いを書いてみようと思います。

過去の自分: 登園の際、私は母と離れる事が寂しくていつも泣いていました。そんな私に担任の先生は「大丈夫だよ」「〇〇する？」と優しく声をかけてくれ、だんだんと「今日は何をするのかな?」「先生とお話したい!」と毎朝園に行く事が楽しみになりました。そんな愛情深い瀬戸こども園の先生が大好きで、保育教諭に対して憧れをもつようになりました。先生に優しくしてもらったことや気持ちを共感してもらえたことは今でも記憶に残っています。そんな記憶に残るような先生に私もなりたいたいと思い、保育教諭を目指すようになりました。

現在の自分: 1年目はひよこ1組の担任、2年目は持ち上がりのひよこ2組を担当させてもらい、できなかったことが出来るようになったり、会話ができるようになったりと、子どもたちの成長する姿に感動する毎日です。子どもたちの成長を間近で見られること、そして何より、私の名前を覚えて「たけやませんせい」と呼んでくれることが嬉しく、“保育教諭”という仕事にやりがいを感じています。この一年間で歩けなかった子が歩けるようになったり、私の名前を呼べるようになったりと、たくさんの成長を間近で見られる事が保育教諭になって良かったなと感じる瞬間でもあります。また、子どもたちと接する中で、子どもたちの言動から新しい気づきを得られ、学ぶことも多く、自分自身の成長にもつながる仕事だと実感します。今年度は2歳児クラスということもあり、自我が芽生える年齢の子どもたちと関わる日々。「自分でしたい」という意欲を大切にしながら見守ったり、時には援助したりと、一人ひとりに合った関わりを持てるよう心がけています。その中で、自分でできた喜びや達成感を味わえるよう関わりながら、自分自身も子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。幼少期、たくさんの愛情をもって優しく関わってくださった先生のように、私も“気持ちをしっかり受け止めて共感出来る”保育教諭になりたいです。

未来の自分がもし今回の「過去・現在・未来の自分」というテーマで再度自分を振り返る機会があった時、“優しく・気持ちに共感できるような保育教諭になる”という目標が達成出来ているように、これからも保育教諭としてレベルアップできるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

(2024年4月)

